

## 「ともに学び、ともに育つ」教育の推進

～子どもたち一人ひとりの教育的ニーズ  
に応じた多様な学びの場づくり～

高等学校の取組みを軸に

桃山学院大学 長谷川 陽一 2025.10.30

- はじめに
- 大阪府における障がいのある子どもたちの現状
- 大阪府の後期中等教育（高等学校）における実践
  - \* 高校生活支援カード
  - \* 自立支援推進校・共生推進校
  - \* 高等学校における通級による指導 など
- まとめ（今後の方向性をみすえて）



## 府内の障がいのある子どもたちの現状

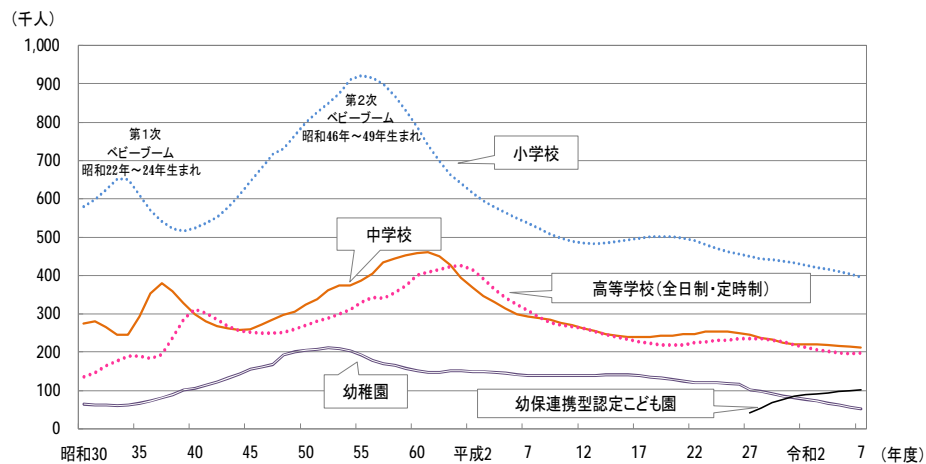


### 大阪府における障がいのある児童生徒の教育の特徴

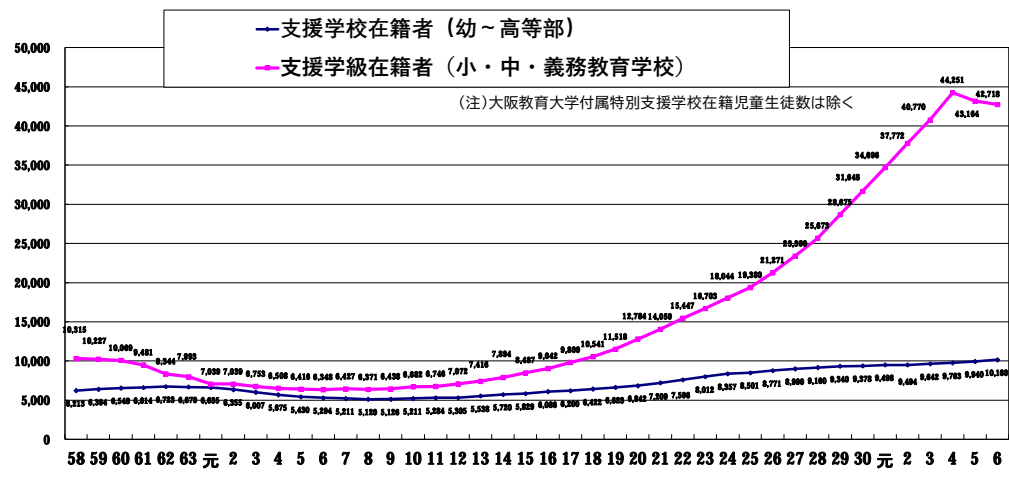
- 府内の支援学校在籍者数は4年連続増加。（前年度比+220人）
- 小・中・義務教育学校への支援学級設置校率は99.6%と、他府県と比較して高い。（全国平均84.3%、R5.5.1）
- 令和6年度の支援学級在籍児童生徒数は、適切な学びの場の見直しに伴い、2年連続で減少。
- 学齢期の子どもが減少しているが、支援を必要とする児童生徒数は増加。
- 令和5年度、府立高校に在籍する障がいにより配慮を要する生徒は3,811人。

大阪の支援教育 令和6年度版より

### 大阪府 学校園在籍者数の推移 大阪府学校基本調査 (R7) より

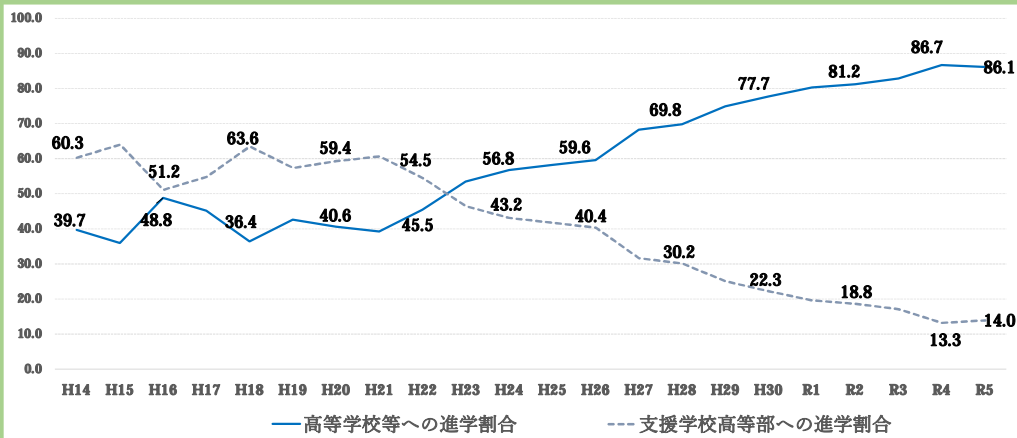


### 大阪府 幼児児童生徒在籍者数の推移 大阪の支援教育 令和6年版より



### 中学校（支援学級）卒業後の進学状況（卒業年度）

「大阪の支援教育 令和6年度版」より



### 後期中等教育における

### 「ともに学び、ともに育つ」教育の実践

“これまで” と “これから”

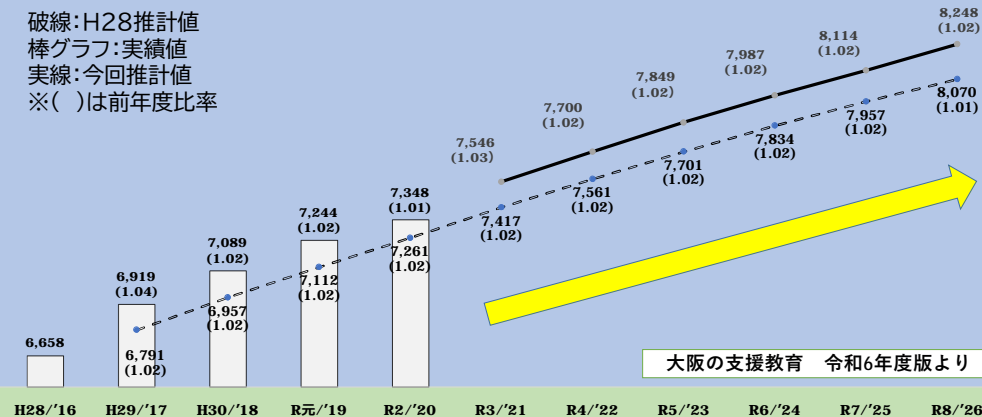
～高等学校における取組みを軸にして～



### 府立支援学校に在籍する知的障がいのある児童生徒の将来推計（R2年度）

- ・ H28年度の推計から約200人増（1590人）。R2～R8年度では、900人増。
- ・ H29～R2年度のいずれの年度においても、実績値がH28年度の推計を上回った。

破線：H28推計値  
棒グラフ：実績値  
実線：今回推計値  
※( )は前年度比率



### 府立支援学校 整備状況及び今後の計画

- ・ 出来島支援学校（令和6年4月開校）

#### 今後の整備方針の概要

- ・ 府立大阪わかば高等学校の敷地内に生野支援学校を移転・併設
- ・ 「豊中市立第七中学校」「府立茨田高等学校」を活用した新校整備
- ・ 交野支援学校四條畷校に小学部を設置し、本校として整備

## 大阪府立高等学校・支援学校の特色例

### 多様なニーズに応える学び

- エンパワメントスクール
- ステップスクール
- 夜間定時制の課程
- 通信制の課程
- 日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒入学者選抜実施校
- 知的障がい生徒自立支援コース・共生推進教室
- 職業学科設置の高等支援学校 など



## 高校生活支援カード

- すべての生徒にとって、安全で安心な学校づくりをすすめるために、保護者の協力のもとに作成し活用。
- 活用により、生徒の状況や保護者のニーズを把握し、中学校、保護者、生徒の想いを受け止め、卒業後の社会的自立に向けて学校生活を送れるよう適切な指導・支援の充実につなげる。
- 平成25年度の11校によるモデル実施後、平成26年度からすべての府立高校で実施。

大阪府教育庁ホームページ 参照

## 高校生活支援カードの「3つの成果」

### I 状況把握（生徒・保護者・地域の状況把握）

### II 意識改革（保護者・教員の意識改革）

### III 支援の充実（生徒・保護者・教員への支援の充実）

☆高校版「個別の教育支援計画」につなげていく

大阪府教育庁ホームページ 参照

### 1 人との関わり方・働き方について（生徒本人が記入してください）

次のAとBのうち、大切にしたい方の数字に○をつけましょう。どちらが正しいということはありません。自分の気持ちに正直に選択してください。

【人との関わり方】

A	1	2	3	4	B
いろいろな人と友人になりたい					必要な人とつきあいたい
人の意見を聞いて行動する					自分で考えて行動する
困った時は人に相談する					困った時は自分で解決する

【将来就きたい仕事について】

A	1	2	3	4	B
幅広くたくさんの方に挑戦したい					一つの事を極めたい
毎日いろいろな人と接する仕事					毎日接する人が決まっている仕事
能力を十分にいかせる仕事					能力をいかせるかにはこだわらない

### 2 自分をもっとも得意と感じる力について、次の3つの中から1つを選んでください。

先生の話をしっかり聞く力  課題や提出物等をやりとげる力  発言や発表、企画・立案をする力

### 3 卒業後の進路について、希望する進路を選んでください。

進学  就職  未定  その他の進路

大阪府教育庁ホームページより一部引用

Ⅱ 地域との関わりについて（保護者の方が記入してください）

1 小中学校時代の地域等との関わりについて（複数回答可）

- 教育関係（地域のスポーツクラブや学習塾等）
- 地域関係（子ども会や他の団体等）
- 福祉関係（地域の福祉機関やボランティア団体等）
- 医療関係（かかりつけの医療機関等）

Ⅲ 安全で安心な高校生活を過ごすために（保護者の方が記入してください）

1 高校生活で不安に感じる事（複数回答可）

- 成績 進級 卒業 進路 友人関係 コミュニケーション
- いじめ 通学 遅刻 欠席 忘れ物 提出物 生活指導面
- その他（ ）

2 これまでの学校生活で、不安に感じた事や通学しにくくなるような出来事はありましたか。

大阪府教育庁ホームページより一部引用

高等学校における「ともに学び、ともに育つ」教育実践

➤ 知的障がい生徒自立支援コース 11校

園芸高校、阿武野高校、柴島高校、枚方なぎさ高校、  
八尾翠翔高校、西成高校、松原高校、堺東高校、  
貝塚高校、桜宮高校、東淀工業高校

➤ 共生推進教室 10校

- 本校：たまがわ高等支援学校： 枚岡樟風高校、金剛高校
- 本校：とりかい高等支援学校： 千里青雲高校、北摂つばさ高校
- 本校：すながわ高等支援学校： 信太高校、久米田高校
- 本校：むらの高等支援学校： 緑風冠高校、芦間高校
- 本校：なにわ高等支援学校： 東住吉高校、今宮高校

職業学科設置・入学者選抜実施

自立支援推進校・共生推進校

\* 高等学校の生徒として仲間とともに学校生活を送ることが基本

	自立支援コース	共生推進教室
学籍	高等学校	支援学校（本校）
教育課程	高等学校（単位を認定）	支援学校（単位時間を認定）
授業の場所	高等学校（5日）	高等学校（4日）本校（1日）
制服・部活動	高等学校	高等学校
その他		就学奨励費制度の活用

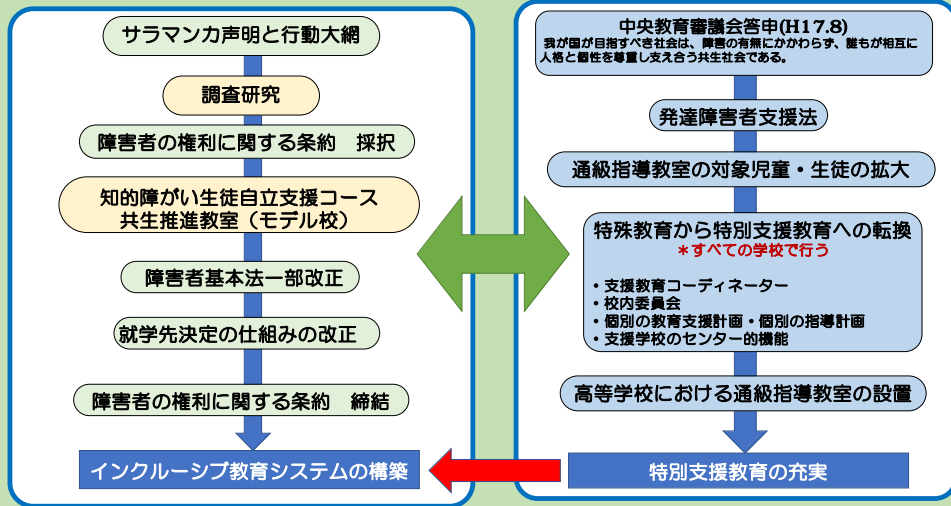
令和6年度リーフレット参照

自立支援推進校・共生推進校・高等支援学校 入学者選抜等

	自立支援コース	共生推進教室	高等支援学校
募集人員	3人～4人	3人	32人～64人
入学者選抜方法	・調査書 ・推薦書 ・面接 総合判定	・調査書 ・推薦書 ・面接 総合判定	・調査書 ・推薦書 ・面接 ・適性検査（筆答・作業） 総合判定
実施時期	2月実施	2月実施	2月実施
その他	療育手帳の所持	療育手帳の所持	療育手帳の所持

令和7年度「大阪府公立高等学校入学者選抜実施要項」及び  
「大阪府立知的障がい高等支援学校職業学科入学者選抜実施要項」参照

## インクルーシブ教育（システム）と特別支援教育



## 知的障がい生徒自立支援コースの源流

- 中学生の思い
  - 仲間と一緒に高校で学びたい
  - 障がいのある仲間とともに高校へ進学したい
- 地域の願い
  - 地域の子ども一人ひとりを大切にする学校づくりを応援したい
  - 障がいのある子どもたち・保護者の願いをかなえたい



\*大阪府の指導主事の中に「天気と教育は西から変わる」という者がいる。  
 ~「大阪は教育をどう変えようとしているのか」明治図書 2005年~

## 知的障がい生徒自立支援コースの源流と背景

- 署名活動
  - \*大阪府の中学生からの広がり
  - \*当事者の願い
- 「交流生」「準高生」としての取組み
  - \*「交流及び共同学習」のモデル
  - \*「「障がい児」と共に柴高生活を送る会」「仲間の会」など
- 「ともに学び、ともに育つ」教育の推進
  - \*大阪府の教育行政の一つの柱
- 特別支援学級の高い設置率
  - \*就学先決定の考え方の先取り

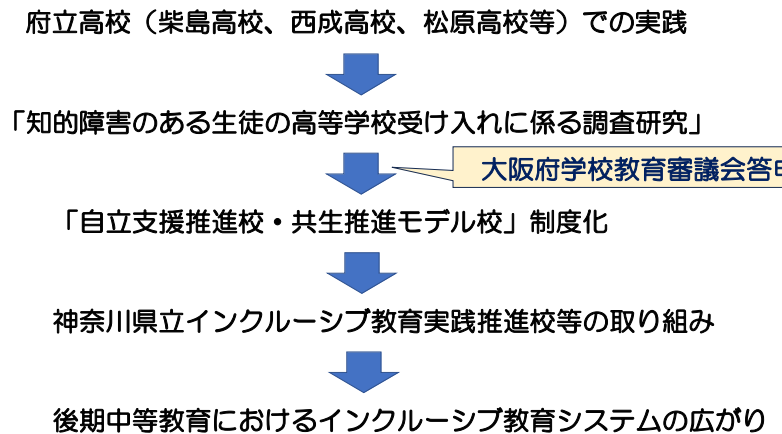
大阪府学校教育審議会への諮問

◆平成12年11月 提言  
 「今後、知的障害のある生徒の後期中等教育の在り方について審議を深め、一定の方向性を見出していくには、、、受入れや交流の実績のある高等学校における**具体的・実証的な研究を基礎とした検証が不可欠**」

◆平成17年10月 答申

- 「大阪府が全国に先駆けて知的障害のある生徒の高等学校の受入れを施策として展開する意義は大きい、、、**調査研究を継承する取組みを引き続き推進**」
- 「教育内容の充実と財政的課題の解決を図るため、調査研修の趣旨を踏まえながら、**国制度も活用する取組みも併せて研究**」

## 制度化・広がり



## ともに学び、ともに育つ教育実践の意義

「私たちのことを、私たち抜きで決めないで」  
'Nothing about us without us.'

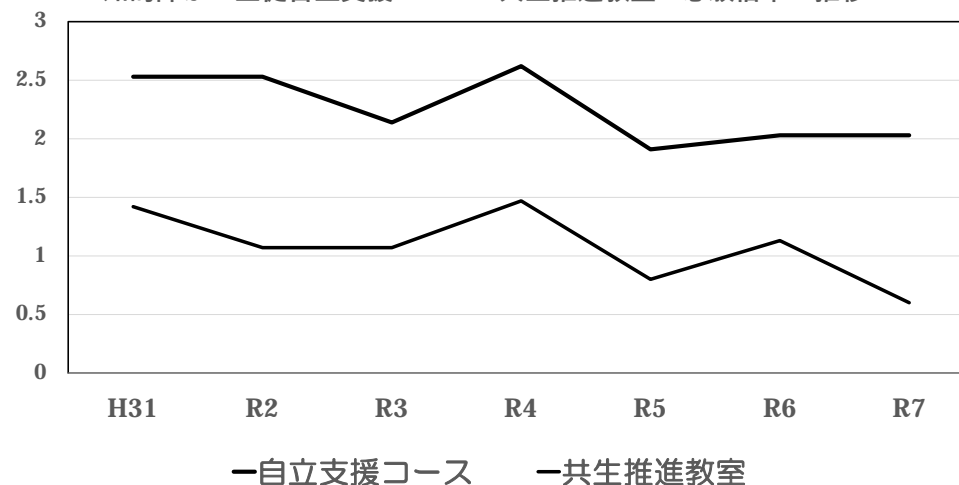
後期中等教育における「学ぶ場の選択肢」を拡大

↓  
多様性のある学びの場の拡大

↓  
多様性のある学びを通じた“こころ”の育ち

↓  
共生社会の一員

知的障がい生徒自立支援コース・共生推進教室 志願倍率の推移



「通常の学級に在籍する障害のある児童生徒への支援に係る方策について」参照  
文部科学省通知 令和5年3月13日

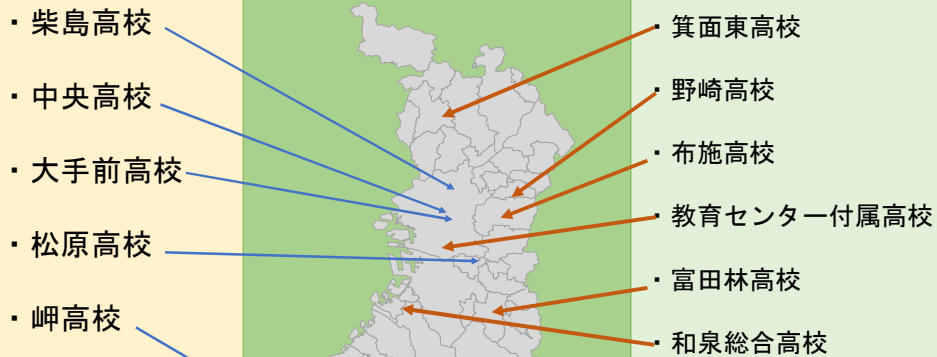
- 校長のリーダーシップの下、児童生徒の実態を適切に把握
- 通級による指導の充実、通級指導担当教師等の専門性の向上
- 高等学校における通級による指導の実施体制の充実
- 特別支援学校のセンター的機能の充実
- 特別支援学校を含めた2校以上の学校を一体的に運営するインクルーシブな学校運営モデルを創設すること

「通級による指導を始める高等学校教員のためのガイドブック」より

- 対象となる生徒
  - 当面の間、発達障がいやその特性のある生徒を対象
  - 生徒・保護者の希望や、学校生活での実態把握をとおして、通級による指導の対象となるかを総合的に判断
- 指導形態
  - 大部分の授業を通常の学級で受けながら、一部の授業について障がいに応じた特別の指導を特別な場で設ける
- 指導内容
  - 支援学校に設けられた指導領域である「自立活動」に相当する指導を行う

## 府立高等学校 通級指導教室設置校

大阪府教育庁 ホームページ参照



通級人数 → R1 : 14人 R2 : 23人 R3 : 30人 R4 : 38人 R5 : 48人

## 「高等学校支援教育力充実事業」の概要

自立支援推進校等から4校を支援教育サポート校と位置づけ、支援学校のセンター的機能と連携協力し、府立高校及び府内の私立高校をサポート

- ① 訪問・来校相談  
\*教育課程の編成の工夫 \*授業モデル \*教材・教具の提示、  
\*評価方法の工夫 \*就労に向けた取組 など
- ② 研究授業（公開授業）等の開催
- ③ 情報提供  
\*教科指導をテーマに実践報告会等を開催  
\*教材・教具、授業モデル案 \*関係機関の情報提供 など
- ④ 支援教育コーディネーター連絡会の開催

大阪府教育庁ホームページ 参照

## 「ともに学び、ともに育つ教育」の実践を通して

「私たちのことを、私たち抜きで決めないで」  
‘Nothing about us without us.’

後期中等教育における「学ぶ場の選択肢」を拡大

多様性のある学びの場の拡大

多様性のある学びを通じた“こころ”の育ち

共生社会の一員

## 「ともに学び、ともに育つ教育」の実践を通して

人権教育の基盤としての理念  
学ぶ場の自己選択・自己決定（選択肢の充実）

多様性への相互理解 共生社会の構築

「特別支援教育」  
個別の教育的ニーズへの適切な指導・支援

## 「ともに学び、ともに育つ教育」の実践を通して

### 特別支援教育の専門性への不安

チームでの指導・支援力の構築

\* 支援教育サポート校のつよみ

\* 支援学校のセンター的機能 など

児童・生徒からの発信  
「なかまとともに」  
「できるようにになりたい」

教科指導の実践

ユニバーサル・インクルーシブデザインの観点の浸透

人権教育・特別支援教育を基盤とする教員層の広がり

## 「ともに学び、ともに育つ教育」の推進

### 特別支援教育

\* 教育的ニーズの把握 \*  
個別の指導・支援  
\* すべての学校での実践

### 人権教育

\* 仲間づくりの広がり  
\* 多文化共生  
\* 多様性の相互理解

## 「ともに学び、ともに育つ」教育実践

### 人権教育

共生社会の構築

### 特別支援教育

共生社会の構築

## おわりに

## 「ともに学び、ともに育つ」の方向性

人権教育

インクルーシブ教育

特別支援教育

共生社会の構築

システムの方向性

共生社会の構築

ご清聴

ありがとうございました

